

## 《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例No. 34

区分 標準予防策

### 【質問】

透析医療機関で、通院患者がカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症を発生した場合の検査対象者はどうするのか、また、環境整備はどのように行うのが教えてください。

### 【回答】

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）は、拡散防止に最も注意を払うべき多剤耐性菌の1つです。その対応は、拡散範囲の評価と拡散防止策の徹底が基本になります。

1. 拡散範囲の評価のために一般に保菌調査や環境調査を行うことがあります。透析環境では、患者同士の接触が比較的長時間認められる場合や伝播の可能性がある場合に保菌調査を行うことを検討します。

保菌調査を行う場合、主な伝播経路は接触感染ですので、濃厚接触患者を対象に比較的限定的なものを実施されてはいかがでしょうか（検体：尿、糞便）。外部に検査を委託する場合は、CREの検出が目的であることを伝え、同定・感受性検査を実施しています。

医療従事者や家族の保菌調査は不要です。

2. 伝播防止のためには、日常の環境整備を含めた標準予防策および接触予防策の徹底が極めて重要です。手指衛生や個人防護具の使用などの標準予防策が確実に行われて

いるかどうか、今一度点検を行ってください。

環境整備については以下の点をご確認ください。

- ・ 消毒薬は、アルコール類または次亜塩素酸ナトリウム液を使用する。
- ・ 患者や職員の手が高頻度に触れるベッド周囲の清拭消毒を患者ごとに行う。
- ・ リネンの共有を避ける。
- ・ 共有する物品は消毒してから次の患者に使用する。

なお、詳細は「多剤耐性グラム陰性菌感染制御のためのポジションペーパー」などをご参照ください。

#### 《参考文献等》

- 1) 多剤耐性グラム陰性菌感染制御のためのポジションペーパー第2版, 日本環境感染学会, 環境感染誌32 ( SupplIII ) , 2017